

学科名	学年	授業のタイトル (科目名)	
工業専門課程 情報処理システム科	2	気象予報Ⅱ	
授業の種類	授業担当者	実務経験	
<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	中西 秀夫	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
[実務経験歴]			
<p>民間の気象会社で予報業務を23年担当。 企業向けの防災セミナーを担当。</p>			
単位数 (授業の回数)	時間数	配当時期	必修・選択
2 単位 (30 回)	60 時間	<input type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/> 通年	<input type="radio"/> 必修 <input checked="" type="radio"/> 選択
[授業の目的・ねらい]			
<p>天気図や数値資料を使って正しく予報を組み立てられる力をつける。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>各種専門的な資料を読解し、相手による予報を組み立てる実践を行う。</p>			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
<p>天気予報を作成できるようになる。</p>			
[準備学習の具体的な内容]			
<p>毎授業ごとに復習の有無の確認を行い、講義・実習を進める。授業終了時には、講義内容の確認と次回の授業内容を説明し、復習・予習ができるようにする。また、長期休みの時は、課題を実施する。</p>			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び評価の基準]	
<p>使用テキスト プリント教材(日本コンピュータ専門学校)</p> <p>参考文献 必要に応じて授業の中で紹介する。</p>		<p>定期試験と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・試験の点数は60点以上を合格点とする。 ・全出席日数の4分の3以上の出席が必要。</p> <p>評価基準 定期試験80%、平常点(出席、講義の参加度)20%とする。</p>	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1回	地上天気図の見方		
2回	高層天気図の見方		
3回	500hPa高度・渦度解析図、予想図の見方		
4回	地上気圧・降水量・風予想図の見方		
5回	500hPa気温・700hPa湿数予想図の見方		

6回	850hPa気温・風、700hPa鉛直流予想図の見方
7回	850hPa風・相当温位予想図の見方
8回	まとめと振り返り
9回	鉛直断面図の見方
10回	気象衛星画像の見方①
11回	気象衛星画像の見方②
12回	気象衛星画像の見方③
13回	気象衛星画像の見方④
14回	気象衛星画像の見方⑤
15回	まとめと振り返り
16回	週間予報アンサンブル図の見方
17回	季節予報資料の見方
18回	GPV資料の見方
19回	ガイダンスの見方
20回	確率予報の見方
21回	短時間予報の見方
22回	まとめと振り返り
23回	予報演習①短時間予報
24回	予報演習②短期予報
25回	予報演習③週間予報
26回	予報演習④季節予報
27回	予報演習⑤大雨の予報
28回	予報演習⑥大雪の予報
29回	予報演習⑦台風の予報
30回	まとめと振り返り